

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立横川中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	165人	国語B	165人
② 数学A	165人	数学B	164人
③ 理科	164人		

5 留意事項

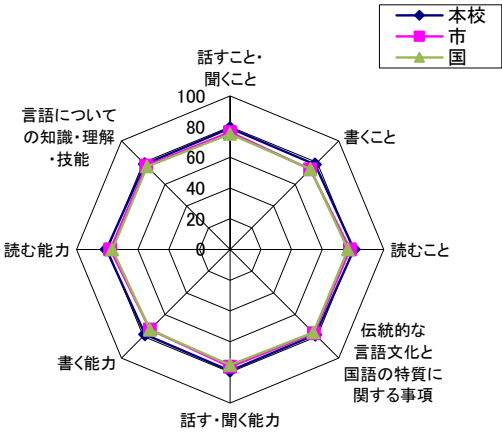
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立横川中学校第3学年【国語】分類・区別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

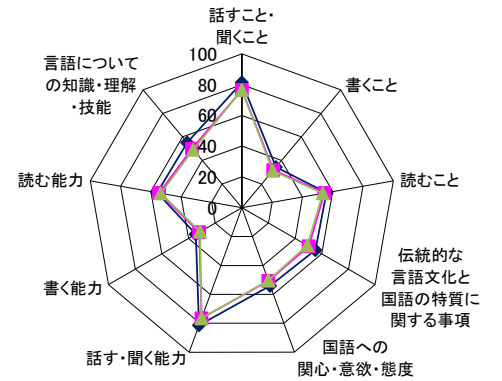
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	79.0	76.4	75.2
	書くこと	78.2	73.7	73.9
	読むこと	80.6	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.5	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	79.0	76.4	75.2
	書く能力	78.2	73.7	73.9
	読む能力	80.6	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	78.5	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	81.4	76.5	76.6
	書くこと	34.5	31.9	31.3
	読むこと	55.9	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	55.2	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	54.1	50.6	50.3
	話す・聞く能力	81.4	76.5	76.6
	書く能力	34.5	31.9	31.3
	読む能力	55.9	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	55.2	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

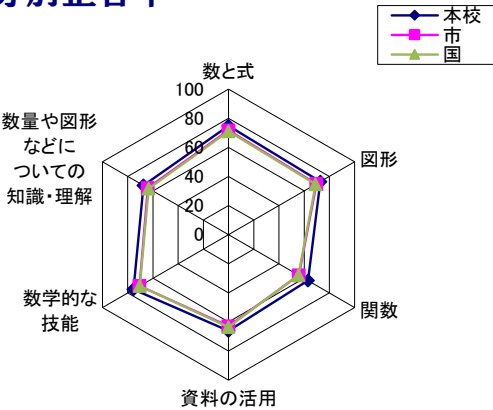
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○どの問題の正答率も県・全国平均を上回った。話しの内容から質問の意図を読み取る力や、メモの正しい取り方などの理解ができています。 ●話し合いの中で確認しなければならないことについての司会としての発言を書くというような問題に対し、県や全国平均よりも数値は低いものの、無回答率が高かった。	・普段の話し合い活動の中でそれぞれの役割の重要性を確認し、授業などに生かせるような知識を身に付けさせる。また、聞き取りテストを行い、話している側の意図や要点を聞き取る力を今後さらに伸ばしていきたい。
書くこと	○目的に応じて文章を読み、内容を整理して書く能力が身についている。段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する問題については、県平均より8.2%上回った。 ●段落の内容を入れ替えて書き直す理由として適切なものを選択する問題の無回答率が、県平均や全国平均より高かった。	・授業では批評文を書く単元で、自分で課題の良い部分ふさわしくない部分を考えるなどして、自分の考えを明確にする力を身に付けさせていく。
読むこと	○場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、内容を理解する力が身についている。この問題に関しては6.3%県平均、全国平均より上回った。 ●文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える問題は他の問題より上回った値が低かった。	・文章の内容や要点を捉えるよう、物語の要約などをやる。文脈からの読み取りや、段落構成を考える問題を中心に単元テストや授業で取り組ませたい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○品詞などの文法の問題や漢字の読みが比較的できよかった。 ●「束ねる」という漢字を書く問題の正答率が県平均より2.8%、全国平均より6.3%低かった。	・漢字の書きは小テストや漢字練習を多く行い、知識の定着を図っていく。また、県立入試問題の大問1を定期的小テストするなどして漢字や文法の知識を定着させる。

宇都宮市立横川中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

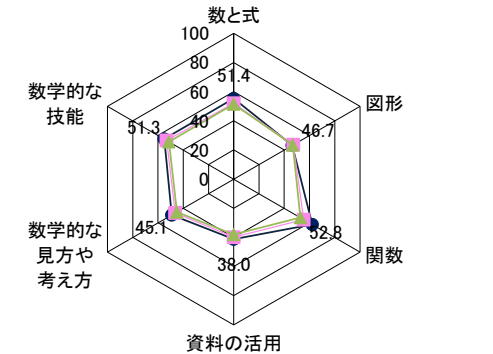
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	74.8	71.7	71.1
	図形	72.8	69.7	69.1
	関数	63.0	55.8	55.5
	資料の活用	66.1	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	75.4	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	67.5	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	55.3	52.0	51.4
	図形	46.3	47.3	46.7
	関数	62.2	55.4	52.8
	資料の活用	41.2	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	49.1	46.3	45.1
	数学的な技能	55.0	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

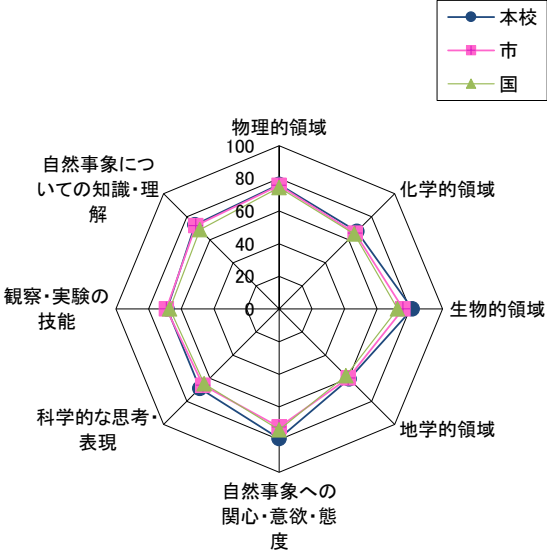
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○整数の性質の説明や式を読み取る課題など記述式の形式の設問で県や全国の平均を上回っている。数学Bでは、すべての設問で県、全国を上回る平均点である。 ●点対称な図形を選ぶ設問や、絶対値が6になる数を答える設問など、数量や図形の知識・理解が必要な問題で誤答や無答の生徒が多くみられた。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ 反復学習を3年間続けてきた成果が見られたと感じるので、今後も同様に反復学習を行いたい。平均を下回った問題については語句の理解不足で正答率が下がっていると考えられる。教科書を活用し、重要語句には線を引くなど知識を身に付けさせたい。
図形	○空間における平面と直線との位置関係を答える問いは正答率が全国・県平均より10ポイント以上上回った。 ○折り目の線の作図と角の二等分線を考える問いは正答率が全国・県平均より10ポイント以上上回った。 ●ひし形が線対称な図形か点対称な図形かを選ぶ問題や、証明を振り返り、証明した事柄を基にして新たな性質を見いだす問題の正答率は全国平均を下回った。	・ 図形の軽量や図形の性質などを証明することは考え方をスモールステップで指導していくことにより、更に定着度を高めさせたい。また、立体模型やICTを活用することにより、視覚的な理解を深めたい。
関数	○比例のグラフからxの変域に対応するyの変域を求める、反比例のグラフから表を選ぶ、1次関数の式からグラフを選ぶ1次関数の式についてxの増加量からyの増加量を選ぶの問題に対し、いずれも正答率も国平均・県平均を上回っている。 ●関数の関係を示したもののから、正しい記述を選ぶ問題については、国平均より0.6ポイント下回った。	・ 関数について知識・理解に関する事柄を授業でくり返し取り上げ定着させたい。また、グラフ、表、式について基本的な内容を理解し、関連づけた問題も全体の正答率は上がってきている。しかし、これらの問題をを苦手としている生徒も少なくない。引き続きこれらを関連づけた問題を扱い、更に説明する力も身に付けさせたい。
資料の活用	○「相対度数を求めること」「確立を求めること」など数学的な技能を問う問題は全国・市平均を上回った。 ●資料の傾向を捉え、数学的な表現を用いて説明することの正答率が全国・市平均を下回った。また、割合の考えを用いる問題に関しては、正答率が全国・市平均を下回った。	・ 割合に関する問題を復習し、基本的な内容を理解できる力を身に付けさせたい。 ・ 資料から必要な情報を適切に読み取る力を身に付けさせるために、関連付けた問題に積極的に取り組ませたい。

宇都宮市立横川中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	76.3	75.7	74.4
	化学的領域	67.2	65.8	65.0
	生物的領域	81.5	75.9	72.5
	地学的領域	60.5	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	79.3	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	68.7	66.0	64.9
	観察・実験の技能	68.6	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	72.9	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○光の反射の問題や、オームの法則の利用、電力についての選択式、短答式の設問で県、全国を上回る平均点である。 ●電流計を回路に直列に接続するという技能および電流計の電気用図記号の知識に関する選択式で県、全国の平均を下回った。	・テレプロンプターやLEDなどを使って、実感を伴った理解ができるようにすることで、日常生活で起こりうる現象とあわせて理解できるようにさせ、物理的領域に興味・関心をもたせていく。 ・平均を下回った電流計の設問については、接続の技能や電気用図記号の復習を行い、知識を定着させていく。
化学的領域	○濃度についての問題、化学変化を原子や分子のモデルについての選択式、記述式の問題で県、全国を上回る平均点である。また、アルミニウムについての新たな疑問を答える設問では、無答の生徒が多く見られた。 ●ガスバーナーの空気の量を調節する場所を指摘する選択式の設問で県、全国の平均を下回った。	・多くの生徒が公式を利用して計算することに苦手意識をもっているのを、段階に応じた問題を多く用意し、計算に慣れさせるとともに、例題を丁寧に説明し、解き方を理解させていく。 ・実験の考察を書けるようにまとめかたを工夫することにより、結果の分析能力をさらに身に付けさせる。
生物的領域	○アサリや刺激と反応に関する知識を活用する選択式の設問や、蒸散についての知識の活用で県、全国を上回る平均点である。 ●無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識の活用に関する設問で県、全国の平均を下回った。	・実験、観察の際にスケッチや考察を書かせる機会を多く取り入れることにより、問題解決の知識・技能を活用することができるようにさせる。 ・自然事象についての知識・理解の必要性が多い領域であるので、授業で学習したことを確実に身に付けさせるよう、振り返り活動を多く取り入れていく。
地学的領域	○地震に関する選択式、短答式のすべての設問で県、全国を上回る平均点である。また風向に関する選択式の設問では、県、全国の平均を大きく上回った。 ●太平洋高気圧についての知識をみる選択式の設問で、県、全国の平均を下回った。また、蒸散と湿度に関する科学的思考に関する記述式の設問で、無回答が多く見られた。	・単元テストなどで記述式の問題を多くすることで、説明できる力を身に付けさせる。 ・天気記号や風力など繰り返し復習して定着させていく。

宇都宮市立横川中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

学習について
○学習に関する問い全般で肯定的な回答が多くみられ、前向きに学習に取り組もうとする姿勢がうかがえる。
○「家で、学校の宿題をしていますか」の肯定的回答が92.8%と全国平均・県平均を上回っている。毎日の家庭学習の定着につながっていると考えられる。今後も自主学習ノートを活用して、家庭学習に取り組ませたい。
●「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」の肯定的回答が59.9%と県平均を下回っている。各教科で予習の内容の指示を徹底する。また、次時の学習内容に繋がるような復習の仕方を指導していく。
●「調査問題の解答時間は十分でしたか」で各教科の肯定的回答は全国平均・県平均とほぼ変わらないが、「時間が余った」という解答は全国平均・県平均を約10ポイント下回った。各教科で問題文をよく読み考える機会を増やしていく。また、時間を意識して問題を解くような機会も増やしていく。
●「生徒の間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の肯定的回答が県平均より5.2ポイント下回っている。各教科で、言語活動を積極的に取り入れる授業の実践を継続して行い、自分の考えが深められるよう丁寧に指導していく。
生活について
○自分の良いところを先生から認められていると回答する生徒が全国や県の平均を上回っており、将来の夢や目標をもっているかとの問いに対しても全国や県の平均を上回っている。これは、自己肯定感をもちつつ日々の生活を送っていると言える。将来にも前向きに考えようという姿勢がみられる。
●生活面においては、規則的な睡眠時間の確保や、宿題の提出などに課題が見られた。スマートフォンやタブレットなどの情報端末の利用や、趣味・習い事など、様々な要因で、現在の中学生を取り巻く環境が変化してきており、何を優先すべきかがそれぞれ違っており、そうした価値観の多様化が今後いっそう進むと思われる。学校教育の場面においては、情報モラルや安全なネットの利用、計画的な時間の利用などの内容も含めた授業の展開を充実させることで、生徒がより自立した生活を送ることができるようしていく。

宇都宮市立横川中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
基礎的・基本的事項の定着を図る「わかる授業」の展開	各教科において、基礎的・基本的事項の定着のため、小テストなどによる反復学習を行っている。また、授業ではTTや習熟度別学習を取り入れ、放課後学習相談も年25回実施している。	国語Aにおいては、すべての領域において、国平均・市平均を上回っている。 数学Aにおいては、すべての領域において、国平均・市平均を上回っている。
全教科における思考力・判断力・表現力を伸ばす言語活動の充実	全教科において、「見せ合い授業」などを行い、学年や各教科各単元に応じて、言語活動の充実のための授業を展開している。	国語Bにおいては、すべての領域において、国平均・市平均を上回っている。 数学Bにおいては、「数と式」「関数」「資料の整理」の領域において、国平均・県平均を上回っている。 また、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表したいと思いますか」「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」の肯定的回答が国・県平均を下回っている。
家庭学習の充実	各学年で、自主学習ノートを使用して、自主学習を毎日行うように指導を行っている。また、学年により基礎学力テストを行うための課題を提示し、家庭学習で取り組むよう指導している。	「家で、学校の宿題をしていますか」の肯定的回答が、92.8%で、国・県の肯定的回答を上回っている。「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答が、国の肯定的回答を上回っているが、県平均は下回っている。

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」の肯定的回答が、56.9%である。	家庭学習の充実	家庭学習の改善に取り組ませていく必要がある。毎日帰りの会後に、5教科の基礎学力テストを行い、間違ったところを自主学習で取り組ませ確かな学力が付くようにする。また、各教科での予習・復習の内容を具体的に示すなど工夫していく。
各教科で単元に応じて、効果的な言語活動が充実するような授業の工夫を行っているが、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる」が74.8%である。	思考力・判断力・表現力を育む授業の工夫	「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫すること」は、肯定的回答が50.9%である。話し合い活動を通して、よりよく伝えることができるようなスキル学習を取り入れてとり入れた指導を行う。そして、その都度生徒が自信をもてるように助言したり、ほめたりするなどしていく。